



Barren Illusion

1999年ヴェネツィア国際映画祭正式参加作品
黒沢清監督作品

大いなる幻影

武田真治 唯野未歩子 制作:ユーロスペース・映画美学校 共同制作:日本スカイウェイ
プロデューサー:堀越謙三・松田広子 撮影・照明:阪主高秀 録音:菊池信之 美術:松本知恵 編集:大友昌弘
配給:ユーロスペース 宣伝:ビターズ・エンド 1999年・カラー・35ミリ・95分・ビスタ

ねえ、このまま終わっちゃうの？

時は2005年。不安定な世界の中で、恋人たちは永遠を見つけ出す。黒沢清監督が、初めて描く愛の物語。

「世界」にとりかこまれた運命の恋人

世紀末の喧騒も、新世紀を迎えた高揚も過ぎ去った2005年。国内には様々な国籍を持つ人々が暮らし、空には外出もままならないほどの花粉が舞っている。

ハルは音楽関係の仕事についてはいるが、すべてを持って余している。今となっては、自分が消えてなくなりそうな不安を追い払うことで精一杯だ。ミチは郵便局の受付をしながらか、ときどき海外小包を失敬している。小包の中身は彼女のコレクションとなり、彼女のここではないどこかへ馳せる想いは強くなってゆく。

ハルとミチという恋人たち。次第にすれ違っていくふたりの日常を描写しながら、黒沢清監督は次第に観るものの視線をスクリーンの外へと誘ってゆく。ひとつひとつの楽器が奏でるメロディは極めてシンプルなのに、それが次第に重なり合うことで壮大なイメージを抱かせる音楽のように。



2000年を過ぎてから、何があったのか調子の悪いコピー機にミチは悪戦苦闘しているし、生殖機能を奪ってしまう花粉症の新薬テストがおこなわれ、戦争でも起こっているのか海の向こうからは兵士の死体が流れ着く。鳴り続ける警報器のサイレンの中、向かいのアパートの女がミチの部屋に逃げ込んでくるように、様々な不安が当たり前のように彼等の生活に飛び込んでくる。映画のなかには直接描かれてはいない「世界」の広がりを感じさせながら、ハルとミチのけっして他の人ではとにかえのきかない絆を描いていく。

ここに黒沢清監督の手によって、まだ誰も見たことのない、まったく新しい愛の物語が誕生した。

存在のはかなさを体現するハルには、ジャン＝ピエール・リモザン監督作品『TOKYO EYES』（98）で新境地を開き、大島渚監督作品『御法度』での沖田総司役も楽しみな、武田真治。ヒロイン、ミチには、斉藤久志監督作品『フレンチ・ドレッシング』で毎日映画コンクール新人賞を受賞した唯野未歩子。

撮影には『復讐一運命の訪問者』『復讐一消えない傷痕』（96）、テレビ作品『学校の怪談G』（98）で黒沢清監督と組んできた柴主高秀。また、録音には石井聰互監督『エンジェルダスト』（94）、諏訪敦彦監督『M/OTHER』（99）などで活躍する菊池信之が参加している。



「世界」が注目する21世紀の映画作家、KUROSAWA

監督の黒沢清は今、国内外を問わず、もっとも注目される存在。83年『神田川淫乱戦争』以来、着実に積み重ねられたキャリアは95年以降、『DOOR III』、哀川翔主演の『勝手にしやがれ!!』シリーズ全6本、『復讐』シリーズを発表することで質量ともに群を抜いたものになる。役所広司主演の『CURE（キュア）』は観客の度肝を抜き、さらに『蛇の道』『蜘蛛の瞳』と傑作が続いた。98年、『ニンゲン合格』では家族の再生を描いて新境地を開き、ベルリン映画祭をはじめ今なお各国の映画祭に招かれている。長年あためてきた『カリスマ』（近日公開予定）はカンヌ映画祭監督週間に招かれ話題を呼んだ。本作品、『大いなる幻影』のヴェネツィア国際映画祭参加で1年のあいだに3大映画祭を3本の映画で制覇するという前

例のない快挙を成し遂げた。香港、エジンバラ、トロントなどでレトロスペクティブがおこなわれ、なかでも熱狂的なフランスでは特集上映だけでなく、『CURE（キュア）』をはじめとする作品の劇場公開も決定するなど、その世界的な評価が高まっている。



『大いなる幻影』によせて

二人が愛し合うという物語は、結局いつもセクシャルな欲求の成就か、あるいは家庭という制度への順応といった結末しかもたらさない。愛の果てには本当にそれしかないのだろうか？ そうでもないだろう。というのが私の生きている実感であり、この映画の発想の原点となった。

私にはどうしても、二人の愛は永遠であるように思える。だが、世界はその永遠性を保証するのに、生殖や結婚といったシステムしか用意しない。このシステムを拒絶した二人にとっては、おそらく愛はひとつの不幸だ。やがて自分自身をも見失う。愛こそが二人を翻弄する。それでも二人は永遠の愛の中で生きていこうとする。たとえそれが大いなる幻影であったとしても。—— 黒沢清



12月11日（土）より独占ロードショー！

特別観賞券1,200円絶賛発売中（当日：一般1,500円、学生1,200円のところ）

●当劇場窓口および都内各プレイガイド、チケットぴあにてお求めください。

上映時間 | 1:00 | 3:00 | 5:00 | 7:00 | 12月31日、1月1日は休館です。

初日1回目上映前に、黒沢清監督、武田真治、唯野未歩子による舞台あいさつがあります（予定）。

ユーロスペース

tel. 03・3461・0211

渋谷駅南口下車2分、JTB前さくら通り上る